

## 青森県原爆被害者の会からのメッセージ

青森県原爆被害者の会は、1960（昭和35）年11月27日に結成されました。会員は、広島・長崎で被爆した被爆者とその家族です。最も多い時には130人を超えた会員も2025（令和7）年1月現在は35名（うち家族会員5名）で、被爆者の平均年齢は86歳となりました。

被爆者の援護と核兵器の廃絶を求めてスタートし、60年余りにわたって、2024（令和6）年にノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の一員として、被爆者の援護と核兵器の廃絶のために青森県で活動してきました。

「自分たちのような苦しみを、二度と誰にも味わわせたくない」という強い思いから、戦争や原爆を繰り返さないためには、被爆の実相を一人でも多くの人に知ってもらう必要があると考え、小中高校や大学の児童・生徒、町内会や生協といった各種団体の市民の皆さんへの講話を重ねてきました。また、写真展「原爆と人間展」を被爆60年の2005（平成17）年から10年間連続で開催し、その後も節目の年には断続的に開催してきました。自分たちが亡くなればその体験も消えてしまうと、自らの体験を綴った手記集を3集発行しています。併せて、核兵器廃絶のための署名等にも取り組んできましたが、近年では日本被団協が2016（平成28）年に提起した「速やかな核兵器廃絶をもとめる」国際ヒバクシヤ署名の青森県における要として活動し、11万筆以上の署名を集めました。また、8月の広島・長崎の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加希望者を推薦し、青森県遺族代表として派遣しています。

他方では、被爆者の健康と医療・生活を支えるための取り組みを重ねてきました。1996（平成8）年からは青森県からの委託を受けて「被爆者相談事業」に取り組み、担当保健師の熱心な支援も受けて相談事業を続けてきました。高齢化が進み、現在ではますます介護等福祉的な制度のサポートを必要とする会員が増え、電話に加えて訪問による相談と支援に取り組んでいます。